

こんにちは。ご紹介をいただきました衆議院議員の小林史明でございます。

まず、このスポーツエコシステム推進協議会が立ち上がることで、スポーツ産業について語られるようになったことは、大変意義が大きいと考えています。

これまで、日本のスポーツは、体育を起源とした教育的な観点で運営をされることが非常に多かったわけです。そうすると、体育、教育は、行政の予算で全て賄うことになります。ひたすら国の予算を投入し、補助金を投入し、そして人材が育成されたらそれで終わりでした。

でも、それで本当に持続可能なのでしょうか。

世界を見れば、スポーツの世界でもすでにエコシステムが回っています。最初の投資は行政かもしれない。でも、そこからさまざまな企業や個人の資金が入ってきて、この循環が大きくなり、蓄積され、そしてそのデータが価値を生み、さらにそこに関わっている人たちに多くの分配が行き、より優秀な人材が集まってくる。これがまさに、エコシステムが回っている状態です。これを我々は目指さなければいけないと思っていて、いろいろな課題はあるにせよ、

岸田政権では一気にさまざまな規制改革を進めています。例えば1万条項ある目視や対面というようなアナログな規制は、今年、来年で全て撤廃をします。1万の規制をたった2年で変えた政権は、過去にありません。それは、今の社会の変化に、この国のルールが追いついていない証で、政権としても強い問題意識を持っています。

そしてもう一つ、このスピード感で改革を進める先に目指すべきところは、循環型の社会にしていこうです。今、岸田政権が最も注力しているのは、経済成長と賃金上昇の好循環です。これまで、皆さんが頑張って、仕事をする、投資をする、その投資は効率化、効率化の先には値下げ、値下げの先には、賃金が上がらないという悪循環だったと思います。これを逆回転させ、成長投資、そこから必要な価格転嫁、価格転嫁で生まれた利益が個人にちゃんと循環され、賃金が上がっていく、所得が上がっていく社会構造をつくっていこうということです。

その観点でスポーツを見たとき、人、資金、資本、そしてデータが循環をしていない。特にそのサークルに入ってきていない、と思います。ここにしっかり価値をつける、そして、そのお金がプレイヤーに回り、事業者に戻り、スポーツ分野が魅力的になり、また世界から情報が集まってきて、データが蓄積され、マーケットが大きくなっていくことで、そこに関わる人たち皆が豊かになるという状態をつくっていきたいと思っています。

この循環を力強く回し、蓄積し、大きくしていきましょうということを、改めて、皆さんと共有したいと思います。